

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400349		
法人名	医療法人 岡本会		
事業所名	グループホーム 高岩		
所在地	高知県吾川郡いの町小川西津賀才126番地		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 12 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然と静かな環境に囲まれ地元で暮らせる当たり前の生活。四季の訪れを肌で感じながら清らかな清流の音と小鳥のさえずりで目覚め季節の花々を眺めながら顔見知りの職員に囲まれて地域で暮らせる事が喜びであり家庭的な雰囲気家族、来客も暖かく迎えられる。これに勝るものは何もないでしょう。

日々の生活の中にも彩りのある暮らしを取り入れ、利用者様一人ひとりの身体状況、精神状態を考慮し、残存機能の維持向上を目指して、自立支援に繋げています。

今回の新型コロナウイルスの影響でご家族との面会、屋外散歩も出来ずにいますが、利用者様を元気づける為には先ず屋内での筋力低下防止策、免疫力を高めコロナウイルスに打ち勝つ為にしっかりとした栄養管理の強化、ご家族に負けない愛情を注ぎ穏やかに過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972400349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方と運動若返り体操などの利用者とのイベントやドライブができなかったが、さりげない挨拶から地域との交流に努めている。地域密着だけでなく、交流の場面を少しずつ増やししながら、管理者だけではなく、ゲートキーパー役の職員がいて、コミュニケーションを深め、何でも言える関係が培っている。施設の間取りも、事務所を中心に両ユニットから利用者を確認しやすく、職員配備も見渡せ易いことから安全面からも高く、母体の病院との連携も、職員行動に後押しもしている。山合いの中に佇む夏と冬の寒暖が激しいこの地に、少しでも明るく温もりを感じ取れる施設を目指そうと管理者は利用者の意向を十分に聞き取り、ご家族と相談しながら、今まで出来てきたことを振り返りながら、利用者が利用者らしく自立できるように利用者に合わせて静かに促している。食事中やゆったりとしているリビングでは、奥ゆかしい利用者が多く、もったり感が十分に感じ、景観が素晴らしいこの自然とフィットしながら同調されている姿が垣間見れた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本目標を玄関や管理室に掲示し、朝礼では唱和を行い職員間で共通認識すると共に日々のケアに取り組んでいます。	基本理念と基本目標が玄関に掲示されていて、外部の人も見ることが出来る。他にも職員の目に入りやすい事務スペースやロッカースペースに掲示し、周知している。朝礼での唱和や職員会議で理念を振り返り、日々のケアに繋げている。	外部の人へも理念が伝わりやすくしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行前は地域のオカリナグループの訪問受け入れや、地域行事への参加、地域の方に野菜を頂き日常的に交流に努め地域の一員として暮らしている。	新型コロナウイルスの影響で活動は自粛されているが、町内会に加入していることと地元の職員が多いことから地域の情報が届いている。昔ながらの住宅地にあり、隣近所の人とも挨拶が飛び交っている。近所の人から季節の野菜も届き、食卓を賑わせている。	地域との縁を深めてみてはどうでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には職員から先に挨拶をする事により、利用者とも自然な状態で会話が生まれるよう緊張をほぐしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や利用者の入所、退所状況、ヒヤリハット報告、職員の研修参加報告。活動状況を細かく報告しサービス内容や運営方法について意見や助言を頂いている。感染予防の為現在は報告書を郵送にてお知らせしている。	町職員、地域包括支援センター、地区長、民生委員、家族代表が委員となっている。会議は、新型コロナウイルスの感染対策のため、書面を郵送していて、アンケートも同封することで、委員からの意見を聞き取っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回、地域の包括支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加し、情報交換や事例検討会を行い、日頃から相談できる協力関係の構築に努めています。	グループホーム連絡会の中で、他事業所と情報や意見交換をし、事業所内のケアに繋げている。行政の対応窓口は、両ユニットの管理者が行っていて、何でも相談できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県が主催する研修への参加や定期的に「身体拘束ゼロ」の手引きを用いて、施設内研修を実施し、職員内での話し合い、意見交換、意識の共有化を行い、拘束しない介護に取り組んでいます。	母体の病院や系列グループホームと共同で身体拘束委員会を設立し、研修や事例の検討で知識を高めている。また、その内容を各事業所に持ち帰り、話し合いの中でケアに反映している。言葉による拘束についても話し合うことで、職員同士でも気を付ける体制が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等の高齢者虐待の記事を抜粋し、施設内研修を実施し、普段から虐待について考え、ストレスを溜め込まないよう職員同士でのコミュニケーションを図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度、成年後見人制度等で町の社会福祉協議会に管理をしてもらう事例があり制度について勉強会を行い理解、知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に入所前に重要事項説明書や契約書の説明を行い、居室を見てもらい、理解と納得を得たうえで契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族と会う機会も少なくなっており、電話にて状況報告をしたり、通信等にて近況報告をするなど、連絡の取れる体制を取っています。	毎月、事業所の便りと一緒に預り金の出納帳へ一言を添えて、郵送で現況を伝えている。感染対策のため、直接家族と会うことは少ないが、電話で意見や要望を聞いている。利用者の意見は、マンツーマンの時に本音が聞き取りやすいので、入浴の時間を有効に使っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常における職員の声や思いを聞き取る事を含め、定期的に職員会議を開催し、意見交換の場を設け、情報の共有を図り、出来る事から運営に反映させている。	職員同士は何でも意見を出しやすい環境ではあるが、休憩時間や職員会議の雑談から意見を汲み取っている。ゲートキーパーとなる職員もいて、一人ひとりの意見や思いが把握出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職員の家庭環境、生活状況や子育て世代に合わせて希望を聞き、シフトの調整を行ない、職員個々の長所を活かし能力が発揮できるように明るく働ける環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に可能な限り参加できるよう配慮し、介護福祉士資格取得の為、初任者、実践者研修など積極的に支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催のグループホーム連絡会への参加や、他の事業所との交流を通じて事例発表を行い、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの向上に努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集、入居前に傾聴を心掛け、不安や要望を気軽に相談できるよう信頼関係の構築に努めています。また本人の要望をお聞きし、プラン作成に反映しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今は訪問は不可能だが、入所前に入院、入所の事業所からも情報収集している。 入所時にはゆっくり時間を持って、家族の要望や不安を聞き出してより良い信頼関係を築き家族支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向、関係機関からの情報をもとに、その時に必要なサービスをカンファレンス時等に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に接する事で、職員は利用者を人生の大先輩として尊敬し、生活習慣や礼儀作法、調理の仕方等教わり、共に支え合う関係を築いています。また本人の意見や意向を尊重した支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所通信に、利用者の日々の生活状況や写真を載せ、電話、面会時に暮らしの様子などを含め心身の状態の変化等をお伝えし、意見や思いを聞きながら共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の気持ちや親しみのある方の関わりが続くように、いつでも面会できるよう配慮を行っていたが、コロナ禍で交流等出来ていないがまた交流できるのを待っている。	昔からかかりつけ医へ受診している利用者が多く、往診で医師に逢えることで気分が穏やかになる事がある。リビングの自席やソファが馴染みの場所となっていて、他者との会話が弾んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活習慣や認知症状の程度を把握し、良好な仲間づくりの支援を行うとともに、座席配置や自由時間の過ごし方に考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には利用者やご家族に納得してもらえるよう説明すると共に、退去後も必要に応じて可能な限り相談等を受けるなど継続して関わりを持つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にこれまでの生活習慣や生活歴を聞き取り、本人の意向や希望を十分把握し、スタッフ間での情報共有を行いケアに反映するようにしている。	入居時に家族から今までの生活や嗜好を聞き、介護計画に活かしている。利用者との何気ない会話や表情から意向を想像し、職員間で共有し、本人の生活しやすい環境づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者やご家族から、生活歴や生活状況を聞き取り、今まで利用していたサービス機関と連携し情報収集を行い、適切な支援に向けてのアセスメントシートの共有を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員会議で個々の心身状況を把握し、残存能力の維持回復等に繋げていけるよう総合的に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見と介護記録や職員の気づきなども踏まえ、申し送りや職員会議、連絡ノート等を活用し情報共有を行い、カンファレンス時に見直しを行っている。またご家族には電話にて希望を聞き、介護計画書に反映し郵送しサインしてもらっている。	新規利用者は、1カ月でプランを見直し、その後は3カ月ごとに見直しをしている。居室の担当職員を決めている。医師にも医療面での意見を聞き、プランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々ファイルに日々の様子や介護計画実践記録を記載し、バイタルや食事、排泄等を共有している。また日々の申し送り、連絡ノート、スタッフの会話で情報を得てケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや買物の代行など、ご家族の支援が困難な時には支援しています。利用者からのニーズに対して職員だけでなく、家族や主治医等にも相談し、必要なサービスが提供できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の地区長や民生委員、趣味のボランティアクラブ等との交流を通じて利用者の豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から主治医に報告したり相談できる関係づくりに努め、利用者の体調の把握、管理を行うとともに必要に応じては専門医受診の支援を行っています。近隣の診療所にいつでも受診できる環境が整っている。コロナ禍なのでより管理を強化しています。	母体の病院が、かかりつけとなっていて、いつでも相談が出来る体制が整っている。歯科は、必要に応じて訪問してもらえ。他科受診については、家族へ対応をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや身体の状況、自覚、他覚症状の有無、食事や水分量の把握に努め、訪問看護師や定期受診時に看護師に報告し助言やアドバイスを受け、健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い情報提供を行い、医療機関と連携を図り、本人、家族の意向を聞きながら支援を行っている。また家族には主治医からの病状説明を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について、主治医を交えご家族の意向を聞き、可能な限り意向を尊重して重度化や終末期の支援を行っています。	現在、看取りは行っていないが、重度化になっても対応できるよう母体病院との医療連携も取れている。看取りのマニュアルも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って施設研修を行ったり、AEDの使用方法を確認し職員の意識を高め、迅速に対応できるようにしている。また母体の医療法人とも連携し、いつでも指示を仰げるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、避難や消火方法等緊急時に対応できるよう訓練をしている。地域住民とは災害対応に関する連携体制を取っている。	年2回、火災と災害を想定した訓練を実施している。万が一に備えて手順書も作っていて、避難経路や火災受信機の近くに掲示している。土砂崩れの災害想定区域となっていて、ヘルメットも準備している。非常食は、ごはんや缶詰を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の身体状況、生活リズムを把握したうえで、一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いに留意しており、特に入浴や排泄時には周囲に配慮しながら自尊心やプライバシーを尊重した声掛けを行っている。	同姓の利用者が多いため、呼称は下の名前に「～さん」を付けている。家族から「～ちゃん」で呼んで欲しいとの要望があり、対応している人もいる。訪室やトイレに入る時はノックをして、意思を確認している。排泄に失敗した時は、本人にだけ伝えるようジェスチャーも交えて羞恥心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で問いかけや声掛けに利用者が安心して答えられるよう配慮し、何を要求しているかが察知出来るように心がけ、利用者が気軽に思いや希望が言える雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう支援している。また季節のイベント等では参加されるか確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント参加などの際には、着たい服を選んで頂き、髪型のセット等は利用者本人の意向を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけ、個々の食事形態で提供している。利用者は野菜の下拵えやテーブル拭きなど可能な範囲で職員と一緒にやっている。食べたい物を聞き食べる喜びを見出している。	食事は手作りとしていて、利用者と一緒に下準備をすることもある。近所の人や職員から旬の食材が届き、季節に応じた食事を楽しんでいる。秋は芋煮会を開催し、身も心も温まっていた。夏はスイカ割り、声を出し合って熱くもなった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好き嫌いや食事、水分摂取量をチェック表にて把握している。本人に合わせた食器選びや盛り付けを行い、食べ易く提供している。また嚥下状態に合わせて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、口腔ケア誘導し歯の状態や口腔内を観察し、個々に合わせた口腔ケアを行っています。義歯使用の方は夕食後洗浄しています。必要に応じ歯科医師にも相談しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握すると共に排泄表を利用し、時間誘導でトイレで排泄できるよう支援している。また排泄前の行動を察知し、さりげなく介助をするなどプライバシーの保護にも努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄リズムを掴み、失敗の少ない排泄介助が出来ている。可能な限りトイレでの排泄が続けられるように努めているため、オシメを利用している利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し排便の有無の確認を行い、主治医に相談しながら排便の調整を行っています。食事内容や水分の調整、運動を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る体制であり、できる限り希望に沿った入浴を実施しています。可能な限り自分で身体を洗ってもらう様配慮しています。季節に合わせて柚子風呂など入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。	脱衣所も広く、入浴用の車いすもあるため、重度化しても安心して入浴できている。毎日、入浴が出来る準備をしているので、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。リハビリの一環として、洗髪や洗身は出来る限り自分でしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休んで頂いています。日中は活動できる時間を作り夜間の安眠に向けて生活リズムを整えるよう支援している。気持ちよく休まれる様、寝具や気温に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、用法等は各自のファイルに処方箋を綴じ職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時には名前、日付、食前後、飲み込み等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や入所時等からアセスメントをし、プランに沿いながら趣味活動や家事等を役割とし、活気を持って生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には屋外に出て体操を行い、体調や気候状況を見ながら散歩や外出など出来るだけ利用者の希望に添った外出支援をしていたがコロナで出来ず。系列施設で行う季節ごとのイベント時もコロナ時期以前は外出する機会作りをしていた。	フロアや廊下に季節の壁画や写真が貼られていて、事業所内でも四季を楽しめている。ユニットの壁を開くと一本の廊下がつながり、事業所内でも歩行練習が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出が容易でない利用者の為に事業所内に売店を開いて買物をしてもらい、本人が支払うよう見守り支援をしている。コロナ前は近くのコンビニエンスストアまで買物に出掛けていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話を掛けたり自分で掛ける事が出来ない方には職員が代行し電話を掛けるなどし、ご家族や知人との繋がりを継続出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには季節の生け花を生けたり、壁面には利用者の作品や行事、現在の写真も飾り加え和める雰囲気作りを工夫している。	リビングからキッチンが近く、食事の準備をしている音やにおいを感じ、食欲を刺激し、自然と完食されていた。テレビ前のソファが落ち着ける空間となっていて、隣の利用者とも笑顔で話されていたのが印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの数か所にソファや椅子を置き、自由に出来るよう工夫したり、利用者同士が自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には自宅で使用していた家具や服、写真等を持って来てもらい、ご本人の意向に沿った部屋作りを行い安心感を持って落ち着いて過ごせる工夫をしている。	居室へは何でも持ち込みが可能で、一人ひとりに合った居室づくりが出来ている。居室は全室が南向きにあり、障子越しにやわらかい明かりが入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、障害物の除去や手すりの設置、トイレの位置や自室の入口などに目印を付けて、室内の環境整備を行い、安全で自立した生活を過ごせるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400349		
法人名	医療法人 岡本会		
事業所名	グループホーム 高岩		
所在地	高知県吾川郡いの町小川西津賀才126番地		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 12 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然と静かな環境に囲まれ地元で暮らせる当たり前の生活。四季の訪れを肌で感じながら清らかな清流の音と小鳥のさえずりで目覚め季節の花々を眺めながら顔見知りの職員に囲まれて地域で暮らせる事が喜びであり家庭的な雰囲気です。家族、来客も暖かく迎えられる。これに勝るものは何もないでしょう。

日々の生活の中にも彩りのある暮らしを取り入れ、利用者様一人ひとりの身体状況、精神状態を考慮し、残存機能の維持向上を目指して、自立支援に繋げています。

今回の新型コロナウイルスの影響でご家族との面会、屋外散歩も出来ずにいますが、利用者様を元気づける為には先ず屋内での筋力低下防止策、免疫力を高めコロナウイルスに打ち勝つ為にしっかりと栄養管理の強化、ご家族に負けない愛情を注ぎ穏やかに過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972400349-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 12 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方と運動若返り体操などの利用者とのイベントやドライブができなかったが、さりげない挨拶から地域との交流に努めている。地域密着だけでなく、交流の場を少しずつ増やしなが、管理者だけでなく、ゲートキーパー役の職員がいて、コミュニケーションを深め、何でも言える関係が培っている。施設の間取りも、事務所を中心に両ユニットから利用者を確認しやすく、職員配備も見渡せ易いことから安全面からも高く、母体の病院との連携も、職員行動に後押しもしている。山合いの中に佇む夏と冬の寒暖が激しいこの地に、少しでも明るく温もりを感じ取れる施設を目指そうと管理者は利用者の意向を十分に聞き取り、ご家族と相談しながら、今まで出来てきたことを振り返りながら、利用者が利用者らしく自立できるように利用者に合わせて静かに促している。食事中やゆったりとしているリビングでは、奥ゆかしい利用者も多く、もったり感が十分に感じ、景観が素晴らしいこの自然とフィットしながら同調されている姿が垣間見れた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本目標を玄関や管理室に掲示し、朝礼では唱和を行い職員間で共通認識すると共に日々のケアに取り組んでいます。	基本理念と基本目標が玄関に掲示されていて、外部の人も見ることが出来る。他にも職員の目に入りやすい事務スペースやロッカースペースに掲示し、周知している。朝礼での唱和や職員会議で理念を振り返り、日々のケアに繋げている。	外部の人へも理念が伝わりやすくしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行前は地域のオカリナグループの訪問受け入れや、地域行事への参加、地域の方に野菜を頂き日常的に交流に努め地域の一員として暮らしている。	新型コロナウイルスの影響で活動は自粛されているが、町内会に加入していることと地元の職員が多いことから地域の情報が届いている。昔ながらの住宅地にあり、隣近所の人とも挨拶が飛び交っている。近所の人から季節の野菜も届き、食卓を賑わせている。	地域との縁を深めてみてはどうでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には職員から先に挨拶をする事により、利用者とも自然な状態で会話が生まれるよう緊張をほぐしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告や利用者の入所、退所状況、ヒヤリハット報告、職員の研修参加報告。活動状況を細かく報告しサービス内容や運営方法について意見や助言を頂いている。感染予防の為現在は報告書を郵送にてお知らせしている。	町職員、地域包括支援センター、地区長、民生委員、家族代表が委員となっている。会議は、新型コロナウイルスの感染対策のため、書面を郵送していて、アンケートも同封することで、委員からの意見を聞き取っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回、地域の包括支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加し、情報交換や事例検討会を行い、日頃から相談できる協力関係の構築に努めています。	グループホーム連絡会の中で、他事業所と情報や意見交換をし、事業所内のケアに繋げている。行政の対応窓口は、両ユニットの管理者が行っていて、何でも相談できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県が主催する研修への参加や定期的に「身体拘束ゼロ」の手引きを用いて、施設内研修を実施し、職員内での話し合い、意見交換、意識の共有化を行い、拘束しない介護に取り組んでいます。	母体の病院や系列グループホームと共同で身体拘束委員会を設立し、研修や事例の検討で知識を高めている。また、その内容を各事業所に持ち帰り、話し合いの中でケアに反映している。言葉による拘束についても話し合うことで、職員同士でも気を付ける体制が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等の高齢者虐待の記事を抜粋し、施設内研修を実施し、普段から虐待について考え、ストレスを溜め込まないよう職員同士でのコミュニケーションを図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度、成年後見人制度等で町の社会福祉協議会に管理をしてもらう事例があり制度について勉強会を行い理解、知識の向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に入所前に重要事項説明書や契約書の説明を行い、居室を見てもらい、理解と納得を得たうえで契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族と会う機会も少なくなっており、電話にて状況報告をしたり、通信等にて近況報告をするなど、連絡の取れる体制を取っています。	毎月、事業所の便りと一緒に預り金の出納帳へ一言を添えて、郵送で現況を伝えている。感染対策のため、直接家族と会うことは少ないが、電話で意見や要望を聞いている。利用者の意見は、マンツーマンの時に本音が聞き取りやすいので、入浴の時間を有効に使っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常における職員の声や思いを聞き取る事を含め、定期的に職員会議を開催し、意見交換の場を設け、情報の共有を図り、出来る事から運営に反映させている。	職員同士は何でも意見を出しやすい環境ではあるが、休憩時間や職員会議の雑談から意見を汲み取っている。ゲートキーパーとなる職員もいて、一人ひとりの意見や思いが把握出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職員の家庭環境、生活状況や子育て世代に合わせて希望を聞き、シフトの調整を行ない、職員個々の長所を活かし能力が発揮できるように明るく働ける環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に可能な限り参加できるよう配慮し、介護福祉士資格取得の為、初任者、実践者研修など積極的に支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催のグループホーム連絡会への参加や、他の事業所との交流を通じて事例発表を行い、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの向上に努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集、入居前に傾聴を心掛け、不安や要望を気軽に相談できるよう信頼関係の構築に努めています。また本人の要望をお聞きし、プラン作成に反映しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今は訪問は不可能だが、入所前に入院、入所の事業所からも情報収集している。 入所時にはゆっくり時間を持って、家族の要望や不安を聞き出してより良い信頼関係を築き家族支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向、関係機関からの情報をもとに、その時に必要なサービスをカンファレンス時等に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に接する事で、職員は利用者を人生の大先輩として尊敬し、生活習慣や礼儀作法、調理の仕方等教わり、共に支え合う関係を築いています。また本人の意見や意向を尊重した支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所通信に、利用者の日々の生活状況や写真を載せ、電話、面会時に暮らしの様子などを含め心身の状態の変化等をお伝えし、意見や思いを聞きながら共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の気持ちや親しみのある方の関わりが続くように、いつでも面会できるよう配慮を行っていたが、コロナ禍で交流等出来ていないがまた交流できるのを待っている。	昔からかかりつけ医へ受診している利用者が多く、往診で医師に逢えることで気分が穏やかになる事がある。リビングの自席やソファが馴染みの場所となっていて、他者との会話が弾んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活習慣や認知症状の程度を把握し、良好な仲間づくりの支援を行うとともに、座席配置や自由時間の過ごし方に考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には利用者やご家族に納得してもらえるよう説明すると共に、退去後も必要に応じて可能な限り相談等を受けるなど継続して関わりを持つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にこれまでの生活習慣や生活歴を聞き取り、本人の意向や希望を十分把握し、スタッフ間での情報共有を行いケアに反映するようにしている。	入居時に家族から今までの生活や嗜好を聞き、介護計画に活かしている。利用者との何気ない会話や表情から意向を想像し、職員間で共有し、本人の生活しやすい環境づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者やご家族から、生活歴や生活状況を聞き取り、今まで利用していたサービス機関と連携し情報収集を行い、適切な支援に向けてのアセスメントシートの共有を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員会議で個々の心身状況を把握し、残存能力の維持回復等に繋げていけるよう総合的に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見と介護記録や職員の気づきなども踏まえ、申し送りや職員会議、連絡ノート等を活用し情報共有を行い、カンファレンス時に見直しを行っている。またご家族には電話にて希望を聞き介護計画書に反映し郵送しサインしてもらっている。	新規利用者は、1カ月でプランを見直し、その後は3カ月ごとに見直しをしている。居室の担当職員を決めている。医師にも医療面での意見を聞き、プランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々ファイルに日々の様子や介護計画実践記録を記載し、バイタルや食事、排泄等を共有している。また日々の申し送り、連絡ノート、スタッフの会話で情報を得てケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや買物の代行など、ご家族の支援が困難な時には支援しています。利用者からのニーズに対して職員だけでなく、家族や主治医等にも相談し、必要なサービスが提供できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の地区長や民生委員、趣味のボランティアクラブ等との交流を通じて利用者の豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から主治医に報告したり相談できる関係づくりに努め、利用者の体調の把握、管理を行うとともに必要に応じては専門医受診の支援を行っています。近隣の診療所にいつでも受診できる環境が整っている。コロナ禍なのでより管理を強化しています。	母体の病院が、かかりつけとなっていて、いつでも相談が出来る体制が整っている。歯科は、必要に応じて訪問してもらえ。他科受診については、家族へ対応をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや身体の状況、自覚、他覚症状の有無、食事や水分量の把握に努め、訪問看護師や定期受診時に看護師に報告し助言やアドバイスを受け、健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い情報提供を行い、医療機関と連携を図り、本人、家族の意向を聞きながら支援を行っている。また家族には主治医からの病状説明を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について、主治医を交えご家族の意向を聞き、可能な限り意向を尊重して重度化や終末期の支援を行っています。	現在、看取りは行っていないが、重度化になっても対応できるよう母体病院との医療連携も取れている。看取りのマニュアルも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って施設研修を行ったり、AEDの使用方法を確認し職員の意識を高め、迅速に対応できるようにしている。また母体の医療法人とも連携し、いつでも指示を仰げるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、避難や消火方法等緊急時に対応できるよう訓練をしている。地域住民とは災害対応に関する連携体制を取っている。	年2回、火災と災害を想定した訓練を実施している。万が一に備えて手順書も作っていて、避難経路や火災受信機の近くに掲示している。土砂崩れの災害想定区域となっていて、ヘルメットも準備している。非常食は、ごはんや缶詰を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の身体状況、生活リズムを把握したうえで、一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いに留意しており、特に入浴や排泄時には周囲に配慮しながら自尊心やプライバシーを尊重した声掛けを行っている。	同姓の利用者が多いため、呼称は下の名前に「～さん」を付けている。家族から「～ちゃん」で呼んで欲しいとの要望があり、対応している人もいる。訪室やトイレに入る時はノックをして、意思を確認している。排泄に失敗した時は、本人にだけ伝わるようジェスチャーも交えて羞恥心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で問いかけや声掛けに利用者が安心して答えられるよう配慮し、何を要求しているかが察知出来るように心がけ、利用者が気軽に思いや希望が言える雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう支援している。また季節のイベント等では参加されるか確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント参加などの際には、着たい服を選んで頂き、髪型のセット等は利用者本人の意向を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけ、個々の食事形態で提供している。利用者は野菜の下拵えやテーブル拭きなど可能な範囲で職員と一緒にやっている。食べたい物を聞き食べる喜びを見出している。	食事は手作りとしていて、利用者と一緒に下準備をすることもある。近所の人や職員から旬の食材が届き、季節に応じた食事を楽しんでいる。秋は芋煮会を開催し、身も心も温まっていた。夏はスイカ割り、声を出し合って熱くもなった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好き嫌いや食事、水分摂取量をチェック表にて把握している。本人に合わせた食器選びや盛り付けを行い、食べ易く提供している。また嚥下状態に合わせて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、口腔ケア誘導し歯の状態や口腔内を観察し、個々に合わせた口腔ケアを行っています。義歯使用の方は夕食後洗浄しています。必要に応じ歯科医師にも相談しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握すると共に排泄表を利用し時間誘導でトイレで排泄できるよう支援している。また排泄前の行動を察知しさりげなく介助をするなどプライバシーの保護にも努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄リズムを掴み、失敗の少ない排泄介助が出来ている。可能な限りトイレでの排泄が続けられるように努めているため、オシメを利用している利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し排便の有無の確認を行い、主治医に相談しながら排便の調整を行っています。食事内容や水分の調整、運動を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る体制であり、できる限り希望に沿った入浴を実施しています。可能な限り自分で身体を洗ってもらう様配慮しています。季節に合わせて柚子風呂など入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。	脱衣所も広く、入浴用の車いすもあるため、重度化しても安心して入浴できている。毎日、入浴が出来る準備をしているので、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。リハビリの一環として、洗髪や洗身は出来る限り自分でしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休んで頂いています。日中は活動できる時間を作り夜間の安眠に向けて生活リズムを整えるよう支援している。気持ちよく休まれる様、寝具や気温に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、用法等は各自のファイルに処方箋を綴じ職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時には名前、日付、食前後、飲み込み等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や入所時等からアセスメントをし、プランに沿いながら趣味活動や家事等を役割とし、活気を持って生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には屋外に出て体操を行い、体調や気候状況を見ながら散歩や外出など出来るだけ利用者の希望に添った外出支援をしていたがコロナで出来ず。系列施設で行う季節ごとのイベント時もコロナ時期以前は外出する機会作りをしていた。	フロアや廊下に季節の壁画や写真が貼られていて、事業所内でも四季を楽しめている。ユニットの壁を開くと一本の廊下につながり、事業所内でも歩行練習が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出が容易でない利用者の為に事業所内に売店を開いて買物をしてもらい、本人が支払うよう見守り支援をしている。コロナ前は近くのコンビニエンスストアまで買物に出掛けていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話を掛けたり自分で掛ける事が出来ない方には職員が代行し電話を掛けるなどし、ご家族や知人との繋がりを継続出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには季節の生け花を生けたり、壁面には利用者の作品や行事、現在の写真も飾り加え和める雰囲気作りを工夫している。	リビングからキッチンが近く、食事の準備をしている音やにおいを感じ、食欲を刺激し、自然と完食されていた。テレビ前のソファが落ち着ける空間となっていて、隣の利用者とも笑顔で話されていたのが印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの数か所にソファや椅子を置き、自由に出来るよう工夫したり、利用者同士が自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には自宅で使用していた家具や服、写真等を持って来てもらい、ご本人の意向に沿った部屋作りを行い安心感を持って落ち着いて過ごせる工夫をしている。	居室へは何でも持ち込みが可能で、一人ひとりに合った居室づくりが出来ている。居室は全室が南向きにあり、障子越しにやわらかい明かりが入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、障害物の除去や手すりの設置、トイレの位置や自室の入口などに目印を付けて、室内の環境整備を行い、安全で自立した生活を過ごせるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				